

**令和5年度補正予算事業
インターネット上の偽・誤情報対策技術の開発・実証について**

総務省 情報流通行政局 情報流通振興課

2024年4月15日

生成AIに起因する偽・誤情報を始めとした、インターネット上の偽・誤情報の流通リスクに対応するため、対策技術の開発・実証を実施。

〔 予算額：総額4.5億円程度 〕

【事業概要】

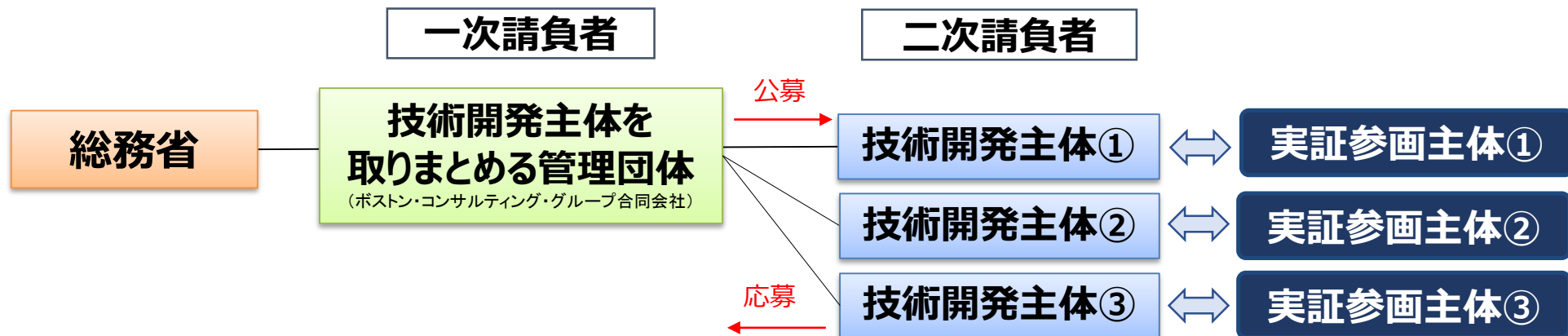
1. ディープフェイク対策技術の開発・実証

- ファクトチェック機関やメディア等による活用を念頭に、生成AIにより生成された画像・映像を判別する技術の開発・実証を実施する。

2. 発信者情報の実在性・信頼性確保技術の導入促進

- ネット上に偽情報が流通する中で、情報コンテンツや発信者の信頼性等を受信者が容易に判別可能とするため、正しい情報コンテンツに発信者情報を付与し発信者の実在性と信頼性を確保する技術の実証を支援する。

【事業スキーム】



※ 実証参画主体は、ファクトチェック機関、ソーシャルメディア、公的機関等を想定

2024年

2025年

4月

5月

6月

7月

8～12月

1月

2月

3月

▲一次請負者採択

▲開発主体の公募※

▲開発主体の採択

▲成果報告会

一次請負（BCG）

DF対策技術等調査、
公募要領の作成

開発主体の公募

評価委員会の審査

開発主体に対する支援、課題管理、進捗管理

事業実施報告書等作成

二次請負者

実施計画書の作成

対策技術の開発・実証実施

事業実施報告書等作成

※必要に応じ、二次公募等を実施。

我が国における大規模言語モデル(LLM)の開発力強化に向けたデータの整備・拡充
及びリスク対応力強化

総務省

令和5年度補正予算額 100億円

① 施策の目的

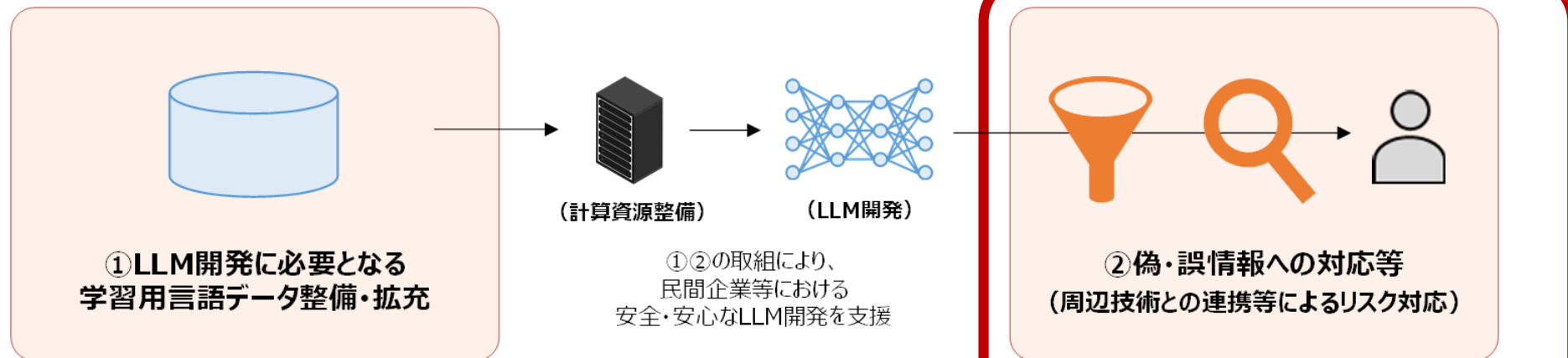
我が国における大規模言語モデル(LLM)に関する基盤的な研究力・開発力の醸成及び生成AIに起因する様々なリスクへの対応力の獲得を目指す。

② 施策の概要

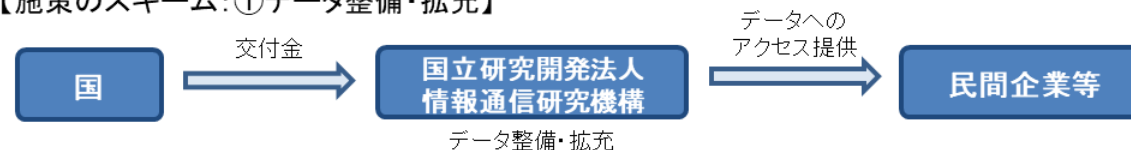
- ・ 国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)において、民間企業等におけるLLM開発に必要となる大量・高品質で安全性の高い日本語を中心とする学習用言語データを整備・拡充し、我が国のLLM開発者等にアクセスを提供。
- ・ 偽・誤情報をはじめとした生成AIに起因する様々なリスクに対応するための技術の開発・実証を実施。

③ 施策の具体的内容

【LLM開発から利用までのプロセス及び実施施策】



【施策のスキーム: ①データ整備・拡充】



【施策のスキーム: ②偽・誤情報への対応等】

